

どんな世代
どんな状況の人

／ 地域でささえる ／
居場所づくり

今、社会とのつながりを充分にもてず、孤立を深める人が増えています。

それをサポートする、学校、職場、家庭以外の“第3の居場所”として注目されているのが「多世代・多機能な居場所」。

NPO法人 セカンドリーグ茨城もこうした取り組みを行う団体のひとつです。

同法人理事長の横須賀 聡子さんはどのような思いで活動しているのでしょうか？



次ハ°-ジ"につづ"く! ➡



セカンドリーグ茨城が手がけた「居場所づくり」の事例(一部)



310 食堂

子どもや高齢者を中心に低価格で食事を提供。月に1回のペースで開かれる。



子どもフードパントリー水戸

企業、農家、家庭から寄付された食料を子育て世帯に提供。食料だけでなく文房具も集まった。



マチノイズミプチマルシェ

地域で採れた野菜といっしょに、子どもたちの手づくりの品を出品。



横須賀 聡子さん

NPO法人 セカンドリーグ茨城 理事長

茨城県水戸市を中心に子どもと地域のおとなたちをつなげ、支援活動を精力的に行う。「いっしょに考える」ことを大切に、楽しんで参加できる取り組みを多数続けている。

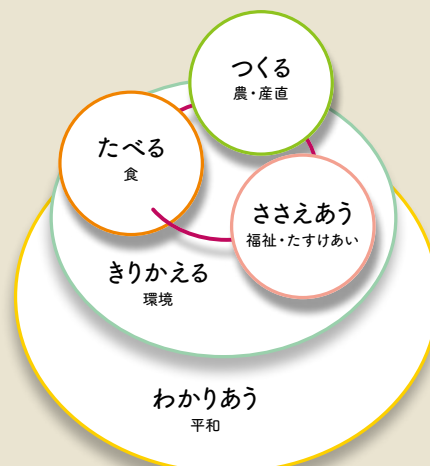
パルシステム共済連は「多世代・多機能な居場所」づくりに取り組んでいます。

パルシステム2030ビジョン“ささえあう”の実現に向けて

パルシステム共済連「福祉・たすけあい委員会」では、パルシステム2030ビジョンの“ささえあう”の実現に向けて取り組んでいます。2022年度は、居場所づくりに取り組んでいる行政、NPO法人、パルシステム以外の生協職員などを講師に招き、さまざまな取り組みについて学習を行ってきました。今後は、学習したことを参考にしながらそれぞれの地域でいろいろな世代の人が集まり(多世代)、集まった方々の多様なニーズに対応可能(多機能)な居場所づくりをはじめ、パルシステムグループ全体で2030ビジョンの実現をめざしてできることから進めていきます。

パルシステム2030ビジョンより“ささえあう”の一部から

(2) 地域のあらゆる立場の人たちが「自分ができること」で、ささえあってくらしをいける仕組みや拠点づくりを進めることで、地域福祉の取り組みに積極的に関わります。



パルシステム2030ビジョン

「たべる」「つくる」「ささえあう」ともにいきる地域づくり

2022年度に行った「多世代・多機能居場所づくり」学習会

- 6月 地域共生社会の実現に向けて～多世代の大切さ～
- 7月 地域共生社会の実現に向けて～立川市地域しあわせ・支えあいプランに学ぶ～
- 8月 コミュニティカフェ(居場所・サロン)に必要な支援とは
- 9月 第三の居場所をつくるNPO法人サードプレイス～運営について～
多様な人が集う居場所・芝の家
～参加者や担い手について～
- 10月 ステーションと地域コミュニティ～鳥取県生協コステーションの取り組み～
- 11月 セカンドリーグ茨城・パルシステム茨城 栃木・地域連携で取り組む“居場所”
- 12月 エフコープ・杷木復興支援ベースの取り組みを学ぶ～災害とコミュニティ～



Information



毎月、更新中です！

くらしのお金に関するWebコラム びいあらいぶぶらす

パルシステム共済連のホームページのコンテンツ「びいあらいぶぶらす」にて連載中の「あなたの“お金”の悩み”相談にのります」。

2022年5月からファイナンシャルプランナーのハツ井慶子さんが、寄せられた困りごとにアドバイスを送ってききましたが、この5月以降も引き続き担当していただけることになりました！

これからもお金に関するさまざまな悩みを取り上げます。連載は毎月月初に更新していますので、引き続きよろしくをお願いします！



パルシステム びいあらいぶぶらす

検索

ハツ井 慶子 さん

ファイナンシャル・プランナー (CFP 認定者)

宅地建物取引士

(社) 日本証券アナリスト協会検定会員

城西大学経済学部非常勤講師

法政大学経済学部経済学科卒業。信用金庫勤務を経て、

2001年より「家計の見直し相談センター」にて、FPとして活動を始める。

2013年に独立し、「生活マネー相談室」を設立。個人相談を中心に、講演、執筆、取材などの活動を展開。これまで1000世帯を超える相談実績をもつ。

コンテンツ
はこちら



※2023年5月1日公開

ありがとうの ボタン

パルシステム共済連「ささえあい基金」助成金を受けた団体から届いた、自分たちの活動や助成金への思いを紹介します。紹介団体への応援メッセージ受付中！ Webでのアンケートやページ下の感想記入用紙を使ってお寄せください。

一般社団法人 彩の国子ども・若者支援ネットワーク

私たちは子どもの貧困の連鎖を断つ目的のもと、一人ひとりの子どもや保護者の生活状況に応じた「寄り添う支援」に取り組んでいます。埼玉県内を中心に、学習支援と家庭訪問、そして地域資源や支援団体との連携により、子どもの学習権や進路の保障、高校中退防止、保護者の養育相談・教育相談、世帯全体の生活支援などを行っています。

「ささえあい基金」の助成を受け、2022年9月までの半年間で、不登校・ひきこもりの子どもなどに対する学習支援・居場所づくりをのべ33回行いました。また、電話・面談等を中心とした教育相談・子育て相談も、のべ104回実施しました。この助成金のおかげで、子どもの命を守り成長を支えること、そして保護者に寄り添った支援に取り組むことができました。これからもこうした活動を引き続き行い、子どもを取り巻くさまざまな実態に即したきめ細やかな「寄り添い型支援」に取り組み、支援対象者の生活実態に合った支援を行っていきます。



プリントを解くようすを見守る



教室の合間に将棋を指すことも

●ささえあい基金 (共済事業での地域づくり支援制度)

生活困窮者や社会的孤立者への支援活動等を行う市民団体やNPOへの助成金制度です。2023年度は29団体に計1,490万円の助成を決定しました。

※助成金は組合員からお預かりしたCO・OP共済《たすけあい》の掛金から生まれた剰余金の一部を活用し、組合員理事・有識者を交えた審査会を経て理事会で承認され使用します。

